

令和4年度 第1回四、五段審査会講評

教士八段 市川 学

コロナ感染症の続く中、9月24日(土)東京武道館大武道場にて、四、五段審査会が行われました。東京都剣道連盟及び居合道部会の役員、係員の皆様に無事終了できました事を深く感謝申し上げます。

指定技は、一本目は古流で指定技は、袈裟切、三方切、顔面当て、総切りで四、五段とも共通でした。

四段は受審者53名、合格者15名で合格率28.3%、五段は受審者43名、合格者16名で合格率37.2%でした。審査員として気が付いた点を申し上げます。

四段では特に稽古不足を感じられました。携刀姿勢での入場、下げ緒、礼法が不十分です。稽古に対する心構えが見られるところですので、もう1度自らに問い直して頂きたいと思えます。柄の手の内が出来ていません。四、五段位では今までの手の内に加えて、さらに働きが求められます。それが無く腕で振り回している方が多く見られました。

指定技について気が付いた点を申し上げます。

五本目袈裟切

鞘を返してから抜いている方が多く、体が使えていません。下方に向かって抜かれる方は煽り上げて肩で担ぐ形になり、間が生じていました。鞘引きを含めた左手の使いが不十分でした。

七本目三方切

左半身の大振りでも左腰が入らずに抜き打っていた。左方の切りが間をおいて切っていた。体の捌きが見られず、足先だけで刀を振り回している方が多く見られた。

八本目顔面当て

柄頭が右前に当てて、顔中央に当たっていない方が多かった。ほとんどの方が体側で抜けてしまつて太刀先が敵に向いていなかった。身幅分の体捌きができていなかった。体側から振りかぶる方や重心を右足に乗せて敵を見るという間を置く方が多かったです。

十一本目総切り

上段にかぶらずに振り回して切る方が多く見られました。切りの高さ、刃筋、中央までの切りが不正確で切り過ぎている方、水平切が上下する方、足を切った後に寄せている方、体が前に崩れている方が目立ちました。これでは敵に勝つ以前に自らが崩れていては、すでに負けています。

以上が今回、気が付いた点です。

今回、合格された方は、その段位の基本が認められた事になりますので、その先の稽古を積んで頂かれることを期待します。また、僅差により不合格だった方は正確さと段位が要求しているものを感じ取りさらに修行されることを望みます。